

## 第4回道の駅「来夢とごうち」再整備基本計画策定検討委員会

と き：令和4年2月18日（金）15：30～17：00

ところ：安芸太田町役場 東館 大集会室

### 1. 開会

事務局 渡海

産業観光課の渡海が進行を務める。次第にそって会議を進めさせていただく。

### 2. 町長あいさつ

橋本町長

まん延防止等重点措置の中、集まっただき感謝している。

コロナウイルス感染症により、道の駅の策定委員会について、中々思うように進まないところはあったが、策定委員会をはじめ多くの皆様のご協力を得てとりまとめを迎えることができた。皆様の思いを集め、自分たちの新しい道の駅として意見をまとめさせていただいた。これを基に来年度は具体化や絞り込みを行う予定である。

多くの町民の意見を集めた道の駅の計画として、議論を重ねてきた経緯を踏まえ、まとめていきたい。

委員長 篠原先生

今回の委員会がとりまとめとなる。これだけ町民の思いを集めた計画は全国でも中々なく、敬意を表したい。一方で、理想的な将来像を実現するためにはまだハードルがある。この点について皆さんの意見をいただきたい。

本日の協議事項は1～4までとなっている。

1は「今年度検討結果のまとめ（案）」、2は「安芸太田町観光・産業振興戦略（案）」、3は「次年度以降の整備スケジュール（案）」となっている。まずは、「今年度検討結果のまとめ（案）」「安芸太田町観光・産業振興戦略（案）」について事務局より説明をいただく。

### 3. 協議事項

(1) 今年度検討結果のまとめ（案）について

委員会資料-1

(2) 安芸太田町観光・産業振興戦略（案）について

委員会資料-2

産業観光課 菅田課長

説明前に3点報告がある。

1点目、前回の委員会において事業主体について、整備に対するミスマッチへの対策、及び、地域にお金が落ちる仕組みの検討が必要という指摘を受けた。これらを踏まえ、町では道の駅の整備に関して民間活用の検討が必要と判断している。

2点目、地域商社安芸太田が現在、道の駅の指定管理を行っているが、商社は昨年11月に地域DMO（観光法人）として認定を受け、観光にさらに力を入れていくべき立場となった。中間組織としては稼げる組織となる必要がある。

3点目、前回委員会で参考として示した施設配置図について、さらなる根拠づくりとして、来年度にサウンディング調査を予定している。これは民間活用を検討するために必要な調査であり、民間事業者へのヒアリングと併せて来年度以降検討を進めていきたいと考えている。

「今年度検討結果のまとめ（案）」「安芸太田町観光・産業振興戦略（案）」について説明させていただく。

委員会資料1「今年度検討結果のまとめ（案）」についてである。

P1、将来像を「みんなで応援したくなる成長し続ける道の駅」とし、4つのコンセプトとしてまとめている。

P2、導入施設案について、皆さんの意見を踏まえ整理した。そのうえで整備方針を4つにまとめた。前回からの変更としては、前回の5本目を4本目の立ち寄りやすい、立ち寄りたくなる道の駅にまとめさせていただいた。

P3、利用イメージについては、導入機能の整備・配置イメージ、規模を示した。また、利用イメージとして平日と休日の施設の使い方のイメージを記載している。

P5、ゾーニング案について一旦とりまとめている。ここについては民間の調査関係機関との調査を踏まえ、次年度以降に今までの意見を踏まえて整理していきたいと思っている。A案は道の駅を南側に、B案は北側に道の駅を配置した。規模等については県等との協議のもと決め、整理を続ける。

続いて委員会資料2「安芸太田町観光・産業振興戦略（案）」についてである。

P1、観光・産業のハード、ソフトの面についてまとめたものである。長期総合計画、後期基本計画をもとに、観光や産業の課題を踏まえ「道の駅を核に質の高い魅力的な産品や観光を提供するまち」と将来像をまとめている。

P2、観光の将来像は「今だけ、ここだけ、あなただけの提供による安芸太田らしい質の高い観光・食の提供」など4本の戦略方針、産業の将来像は「儲かる産業基盤の整備と就農に関する情報発信」など3本の戦略方針をまとめている。

P3、将来像を達成するための取組（施策）では、戦略方針の具体化を示している。赤字が重点取組と考えている。1、今だけ、ここだけ、あなただけの提供による安芸太田らしい質の高い観光・食の提供では「道の駅再整備」を重点取組と考えている。

戦略方針2、町のブランドメッセージの継続的発信・コンタクトによる安芸太田ファンコミュニティの構築では「町ブランドメッセージの検討・可視化」を重点取組としており、ブランドマークシールを貼るなど具体的な内容について示している。

今後の観光振興については安芸太田町と地域商社、民間事業者が連携する必要がある。地域の方とも話をし、次年度以降進める必要があると町として考えている。

P4、産業の取組では、道の駅を中心に農業の活性化をどのように進めていくかが重要であると考えている。「指導体制の構築」「集荷システムの構築」「産直市の運営主体組織の構築」を重点取組としている。これについては、来年度から地域に入り、具体的に進めていきたい。様々な主体が連携を行う必要があると考えている。

協議会を活用し、道の駅を中心に関係する方々と連携することが成功のために必要と考えている。町としては観光産業振興のための予算をつけることも検討している。

委員長 篠原先生

委員会資料1の1ページ目について、当初は全国の道の駅の成功事例から理想的なものを抽出し多く掲げていた印象を受けたが、今回は絞り込んでいただいた。しかし整備に移るためには、さらに地域の実情にあわせそぎ落していく必要があるのではないか。絵にかいた餅とならないようにすべきであると思う。

皆様より、委員会資料1の1ページ目について意見をいただきたい。

比治山大学 山田先生

委員長のご指摘通り、未だ全体的に網羅されており、表現も整理されすぎている印象を受けており、実現へ不安を感じている。

将来像の部分について「みんなで応援したくなる成長し続ける道の駅」とあるが、成長し続けるとは何か。また、何のために成長していくか、具体的にどういうイメージを持っているのか。

委員長 篠原先生

ご指摘は、町の戦略の中で、どのように町が成長していくのかを明確にすべきという意味かと思う。

産業観光課 菅田課長

道の駅はトイレ休憩の場から始まり、地域の情報提供の場、そして道の駅を通過して観光地へ繋ぐものへと変化しており、近年は防災についても検討されている。防災拠点については今後整理が必要だが、社会状況に合わせて道の駅は変化していく必要があることから「成長し続ける」と表現した。

比治山大学 山田先生

安芸太田町の人口減少は今後も進んでいく。その中で交流人口から関係人口、定住人口へつなげていく必要がある。町の中では解決できない課題について、町の外に助けを求める必要がでてくる。その際に、道の駅が課題解決の場となることが望ましい。

資料には、町の将来的なリスクに対して言及されていないため先ほどの質問をさせていただいた。

委員長 篠原先生

私は山田先生とともに国の道の駅の委員をしている。少子高齢化など地域の様々な課題に対して、道の駅をベースにどのように課題解決をしていくかを検討している。道の駅と行政が連携し、地域課題を解決する場が道の駅となるということである。

「成長し続ける」の背景には様々な地域の課題があると思うので、地域の課題を確認したうえで具体的な表記を行う必要があるのではないか。

橋本町長

「成長」という言葉に、私はハード整備にとどまらず、道の駅を通じた産業・観光の振興というソフト面も託している。道の駅が人々を繋ぐハブとして機能し、地域活性化に繋がるというソフト面に大きく期待している。単なる道の駅の管理だけでなく、地域活性化につながるものとして具体化を進めていく。

ハード以上にソフトの活用が重要であると思っている。今後運用面を考えていきたい。

町議会 中本議長

道の駅は、安芸太田町の顔、シンボルとなっていくべき。そのためには産業の活性化が重要であり、そこに地域住民が参画できるようにしていただきたい。また安芸太田町は「健康のまち」宣言をしており、ヘルスツーリズムを実践する森林セラピーのまちということも打ち出していきたい。

将来像、コンセプトはいいと思う。レイアウト等については、より具体的な話をししていきたい。コンセプトを反映したレイアウトになっていないと感じる。森林セラピーも表現できていない。

地域商社事業本部長 栗栖氏

地域商社が道の駅で果たす役割として、観光のインフォメーションは当然としてある。一方、産業の核となるのが道の駅であり、中間組織である地域商社に地域と行政をつなぐことが求められているのではないか。

委員長 篠原先生

道の駅の 2 つの機能、ゲートウェイ及び地域センター機能について議論する必要がある。地域センターは利益を求めるものではないため、公共の負担が発生する可能性もある。道の駅は町にとって大きな投資である。経営面で公共部分と収益部分の線引きをどう引くか、次年度以降にどう考えていくかが重要。

委員会資料 1 の 2 ページ目について、施設を整理することは重要であるが、その施設が経営として成り立つかを整理していく必要があるのではないかと。

子育て世代代表 大庭氏

子育て世代としては、美味しいものや子供が遊べる場があり、休みの日に気軽に遊びに行ける道の駅であってほしい。町民も観光客も楽しめる場が望ましい。家庭によると思うが、安芸太田町に住んでいても森林と触れ合う機会は少ないため、ネイチャーセンターの導入は良いと思う。

委員長 篠原先生

町民が誇りに思う、というのは町民が使いたいと思うことと同義と思われる。

安芸太田町自治振興会 副会長 長尾氏

具体性が見えないと感じる。ここにいるメンバーが道の駅において、どこでどういう力を発揮すればいいのかが見えない。町民がここで関わりたいと言えるようにすべき。

広島市農業協同組合戸河内支店 支店長 山田氏

民泊など町民が行っている活動を含めて施策を絞り、実践してみてもどうか。ソフトでどういう効果が得られるかは、実践しないと分からない部分もあるのではないかと。

委員長 篠原先生

町民活動と計画が連動できるような構想が必要である。

商工会 津田会長代理 大倉副会長

今地域にある商店を活性化することも重要だが、まずは人が寄ってくる道の駅にすることが重要。道の駅は町の顔であり案内する場、人が来ることにより売り上げもあがるし客単価も上がる。観光客も町民もリピートしたくなる、利用者が広がっていく必要がある。道の駅と言えば、食べに行く、地域の産品を探しに行く。子育て世代においては子供を遊ばせる場が必要。人が寄りたくなる道の駅になってほしい。

町には熱意ある職員を育ててほしい。地域商社も商工会も引っ張り、活性化されられるような職員の育成に期待している。

#### 産業観光課 菅田課長

町として観光・産業を進めていく。観光して買い物をしていただくことで産業を支えていくというのは町民も役場も同じ意見である。

観光については、森林セラピーのまちであり、ヘルスツーリズムの団体が多くあることを重視したい。観光によって町が活性化するという構想は町民にも伝わりやすい。

産業については、産直市を支援していきたい。皆様の協力があつての産直市だが、遠方の商品等も購入できるように検討していきたい。

#### 委員長 篠原先生

委員会資料 1 について、地域の方をどう活用するかを取り入れたまとめとして頂きたい。配置検討資料については今後話を進める際に、参考として活用いただきたい。

委員会資料 2 について、観光・産業政策を道の駅でどう展開していくか、それが重要ではないか。

#### 安芸太田町自治振興会 副会長 長尾氏

具体的な検討を進めていく必要がある。結果を先に提示するのではなく、結果は後からついてくるという認識でよいのではないか。地域が参加した活動を一つ一つまとめていくとそれが観光・産業振興につながると思う。

#### 委員長 篠原先生

観光・産業戦略はよくまとまっている。課題について実際にどのように対策していくのか。地域商社は DMO として関わるが、それ以外の方はどのようにかかわっていくのか。次年度に道の駅の具体とあわせて検討していく必要がある。

以前、講演会で話をしたが、安芸太田町には観光資源としていいものがたくさんある。一方で顧客がすべてを享受出来ていない現状があるのではないか。顧客が満足できるように繋がられて初めて道の駅のゲートウェイ機能が生きてくる。

#### 広島経済大学 中村先生

観光・産業の振興はどうやってお金をもうけるかが重要である。儲けを第一にすると、市場経済の方に流れ、地域の農業等がないがしろにされる恐れがある。公共がやる以上、利益追求でなく地場産業の振興という視点を取り入れる必要がある。具体的にはブランド戦略などの施策が考えられる。

公が担う部分と民が担う部分、誰が責任を持ってスタートさせるかが重要である。

産業振興するためには生産性の向上が重要だが、持続可能性をもたせる必要がある。

委員長 篠原先生

色々な見方がある。町民の活動拠点としての機能と経営を繋げていくための機能の判別がむずかしい。資料 2 の実行体制に地域の活力ある人や今まで観光と関係ないと思っていた町民がどう入れるかを考えていくことも必要ではないか。資料 1 の道の駅にどう関わるかまで来年度は繋げて頂きたい。

比治山大学 山田先生

道の駅にはゲートウェイ機能と地域センター機能が期待されるが、両立している道の駅は少ない。しかし県内でも安芸太田町は特に人口減少が著しく、ゲートウェイと地域センターという機能を両立させる典型例となるべき。

実行体制では道の駅で得た収益をいかに産業分野に還元させるかといった体制に見える。そうではなく、町民へも還元されることが図式化されるとゲートウェイと地域センターの両立という安芸太田町ならではのスタイルが見えてくるのではないか。京都の道の駅「美山ふれあい広場」では観光で落ちたお金を地域センター機能に還元している。

「エンジン」という表現が使われているが、道の駅がエンジンになるには、道の駅に落ちたお金が地域に使われるようになることが重要であると思う。

### (3) 次年度以降の整備スケジュール（案）について 委員会資料-3

産業観光課 菅田課長

委員会資料3「次年度以降の整備スケジュール（案）」について、従来方式で整備する予定であったが、民間の力を導入する PPP 方式も想定している。どちらで進めるかを次年度検討する。官民連携手法の導入可能調査において事業者ヒアリングし、PPP 方式では公共として求める機能の実現が難しいと判断した場合は、従来方式とする想定である。

委員会資料 3 追加「令和 4 年度事業スケジュール（案）」では、次年度の詳細なスケジュールを検討した。道路付け替えなど国土交通省等と連携しながらやっていくことも想定している。

民間ヒアリングでは具体的に官民連携に参入していただける条件を聞き取っていく。

参考資料では事業手法について整理している。従来方式は資金調達などすべて公共が行う、DB+0 では設計施工を事業者に一括発注し、維持管理を民間に委託する。DBO では設計・施工・管理一括発注し、民間で管理運営をする。PFI では民間資本を導入する。このような事業手法の導入可能性調査を次年度進める。どの事業手法を用いるかは調査検証しながら検討する。民間活力の導入のみを重視すると安芸太田町以外に収

益が流れることが懸念されるので、その点に留意しながら検討を進める。

委員長 篠原先生

当初は従来方式を想定していたとのことだが、町や地域商社が道の駅を運営できるのかという問題がある。民間のノウハウや資金の活用を検討することは重要である。

町として PPP 方式を決定しても実際に事業者が参入するどうかはわからないため、次年度しっかり検討いただきたい。

国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 守山副所長

最近、広島県内では「道の駅 三矢の里あきたかた」が最近オープンした。産直市を核とした道の駅であり、大変賑わっている。新鮮な野菜などを求める方が午前中に訪れ、夕方は客が少なくなっているが、買い物途中に子供を遊ばせるといった利用が見られ、地域の核となっている。このように地域の方が日ごろ身近に使う道の駅が今後増えてもいいのではないかと思う。

もっと具体的な施設の話になればアドバイスができる。

広島市農業協同組合 森田副部長

現在、営農振興3ヶ年計画を策定している。当委員会が示す産業の課題、方針を踏まえ、策定する。ご指導頂きたい。

委員長 篠原先生

今回はシビアな話を含め、議論ができたと思う。

来年度は実現に向け、現実的なものへ絞っていく段階である。

3月から次年度の動きについてスケジュールを詰めていただきたい。

#### (4) その他

事務局 渡海

多くの意見をいただいた。

3月までに今年度の検討結果をまとめた道の駅再整備計画を作成する。計画書ができたら皆さんにお示ししたい。

#### 4. 閉会あいさつ

小野副町長

民間と協議する中で次年度以降、具体の検討を進めていく。

以上